

会社案内

Corporate Profile

有限会社 増田技術事務所

【Information】

■ The Company

- ・ 会社概要
- ・ 代表略歴
- ・ 事業方針

■ Services

- ・ 品質工学コンサルティング
 - 無料コンサルティング訪問
 - 初心者セミナー
 - MT システム (MT 法・T 法) セミナー
 - 定期相談会

■ Data Room

- ・ 品質工学の紹介

会社概要

- 商号 有限会社 増田技術事務所
- 所在地 〒 399-8205 長野県安曇野市豊科 2639-1
- 資本金 300 万円
- 役員 代表取締役 増田 雪也 (ますだ せつや)
- 創業 2004 年 4 月 (個人事業 増田技術事務所として創業)
- 会社設立 2005 年 1 月 (有限会社 増田技術事務所として会社設立)
- 事業内容 品質工学に関するコンサルティング
 - 1) 各種セミナー
 - 2) 定期相談会
 - 3) 無料コンサルティング訪問

代表略歴

- 1988 年 3 月 信州大学卒業
- 1988 年 4 月 長野県職員 (研究職) として長野県庁に入庁
- 1988 年 4 月 長野県精密工業試験場に配属 (担当: 金属材料)
- 1996 年 5 月 長野県品質工学研究会を設立 (事務局を担当し運営にあたる)
- 2004 年 3 月 長野県庁 (長野県精密工業試験場) 退職
- 2004 年 4 月 個人事業 増田技術事務所 創業
- 2005 年 1 月 有限会社 増田技術事務所 設立

その他の略歴

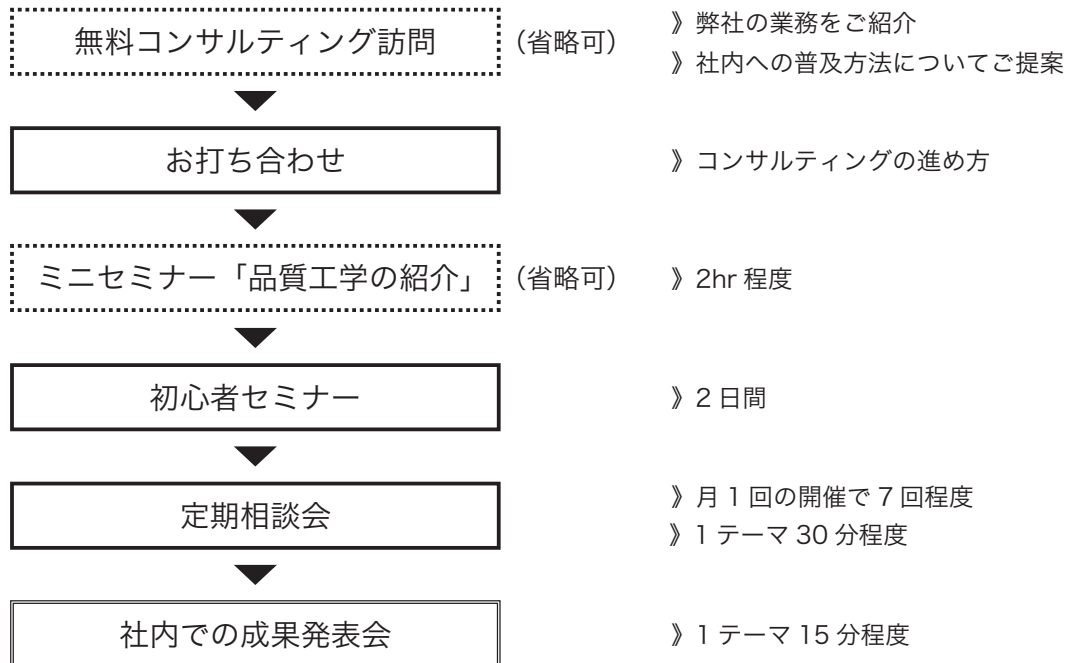
- 1998 年 4 月 品質工学会 評議委員
- 1999 年 3 月 品質工学会 品質工学相談員
- 2001 年 6 月 品質工学会 【品質工学貢献賞】受賞
- 2004 年 6 月 品質工学会 【品質工学貢献賞「銅賞」】受賞
- 2005 年 5 月～ 長野県品質工学研究会 副会長
- 2008 年 6 月 品質工学会 【品質工学貢献賞「銀賞」】受賞
- 2013 年 6 月 品質工学会 【品質工学貢献賞「金賞」】受賞
- 2016 年 6 月～ 品質工学会 代議員

事業方針

- ・ 品質工学の普及を目指します
- ・ 「技術者に品質工学を好きになってもらうこと」を目指します
- ・ 気軽に何でも相談できるパートナーとして、技術者を支援します
- ・ 「上から目線」で指導するのではなく、「同じ目線」で共に考える姿勢を大切にします

品質工学コンサルティング

● 導入の流れ



● お問い合わせ

E-mail : info2qe@abox3.so-net.ne.jp

コンサルティングに関するお問い合わせは、電子メールにてお願い致します

無料コンサルティング訪問

※ 貴社へ出向いて、無料コンサルティングをさせていただきます

● 無料コンサルティングの内容

- 1) プレゼン：【品質工学導入プランの紹介】 10 分間
- 2) 意見交換：品質工学全般に関するご相談など
- 3) 技術相談：現状で問題になっているテーマについて品質工学的な観点からアドバイス

| 初心者セミナー (パラメータ設計)

● セミナーのねらい

- ・品質工学 (パラメータ設計) の基礎知識を習得してもらう
- ・パラメータ設計の手順を習得してもらう

● 内容

第1章	品質工学 (パラメータ設計) の概要
第2章	基本機能
第3章	パラメータ設計の実施マニュアル
第4章	解析シートの使い方 (パソコンで演習)
第5章	標準 SN 比・望目特性の SN 比

● 日程

- ・2日間 (7時間 +5時間 =12時間)

● 受講者

- ・1回の受講者人数 :max10名 (それ以上の場合は複数回の開催になります)
- ・対象 : 品質工学の初心者 (品質工学や統計の予備知識は全く必要ありません)
- ・必須技能 : 表計算ソフト Excel の操作ができること

● セミナー会場必要機材

- ・液晶プロジェクター
- ・ホワイトボード
- ・パソコン (Excel を使います)
- ・シャープペンシル (演習用)

● 配付資料

- ・オリジナルテキストを配布 (全 180 ページ)
- ・オリジナル Excel シートを配布 (L18 直交表、L9 直交表、L36 直交表)
- ・品質工学フローチャート
- ・品質工学活用ノート (ダイジェスト版の品質工学実践マニュアル)

● 備考

- ・セミナー当日から 60 日間は、電子メールによる無料サポート (何通でも無料です)

MT システム (MT 法 +T 法) セミナー

● セミナーのねらい

- ・ MT システム (MT 法 +T 法) の概要と手順を初心者理解してもらう
- ・ 実際に MT システム (T 法) を体験し、そのメリットを実感してもらう

● 内容 (MT 法)

第 1 章	MT システムの概要
第 2 章	異常原因の個別診断
第 3 章	管理幅方式と MT 方式
第 4 章	MT 法ソフトの紹介と使い方
第 5 章	生産ラインでの MT 法の活用
第 6 章	事例紹介「MT 法で個人を判別する」
第 7 章	波形処理
第 8 章	連続データのリアルタイム解析
第 9 章	測定項目を検討する演習

● 内容 (T 法)

第 1 章	T 法の概要
第 2 章	T 法の演習 (米国 CIA データ)
第 3 章	事例紹介
第 4 章	自分の事例で演習

● 日程

- ・ 5.5 時間

● 受講者

- ・ 1 回の受講者人数 :max10 名 (それ以上の場合は複数回の開催になります)
- ・ 対象 : 初心者 (予備知識は全く必要ありません)

● セミナー会場必要機材

- ・ 液晶プロジェクター
- ・ ホワイトボード
- ・ パソコン (Excel を使います)

● 配付資料

- ・ 弊社オリジナルテキストを配布
- ・ 弊社オリジナル T 法解析用 Excel ファイルを配布 (項目数 max240、サンプル数 max600)

● 備考

- ・ セミナー当日から 60 日間は、電子メールによる無料サポート (何通でも無料です)

定期相談会

● 定期相談会のねらい

品質工学を独力で活用することは大変難しい。そこで、コンサルタントによるサポートを受けながら、個別のテーマを実践します。

● 内容

1人1テーマを設定し、実験計画からL18直交表実験、確認実験までを個別にサポートする
※2人で1テーマの設定も可能

● 日程

- ・月1回開催(1テーマ約30分程度)
- ・1日(相談時間は9:00～16:00)
(※1日の相談テーマ数は、最大10テーマ)

● 受講者

- ・対象: 弊社の【初心者セミナー】を受講済みの者

● 定期相談会会場必要機材

- ・ホワイトボード
- ・液晶プロジェクター(適宜)

● 備考

- ・セミナー当日から60日間は、電子メールによる無料サポート(何通でも無料です)

ミニセミナー「品質工学の紹介」

● セミナーのねらい

- ・品質工学（パラメータ設計）の概要と目的を理解してもらう
- ・パラメータ設計の大まかな手順を理解してもらう

● 内容

第1章	品質工学（パラメータ設計）の概要
第2章	品質工学の導入企業・発表テーマ
第3章	品質工学の導入方法

● 日程

- ・2時間

● 受講者

- ・1回の受講者人数：制限無し
- ・対象：品質工学の初心者（品質工学や統計の予備知識は全く必要ありません）

● セミナー会場必要機材

- ・液晶プロジェクター
- ・ホワイトボード

● 配付資料

- ・オリジナルテキストを配布
※原稿 PDF をお送りしますので、お客様側で印刷していただきます

● 備考

- ・テレビ会議、Web 会議等のシステムを使ったセミナーの中継は不可

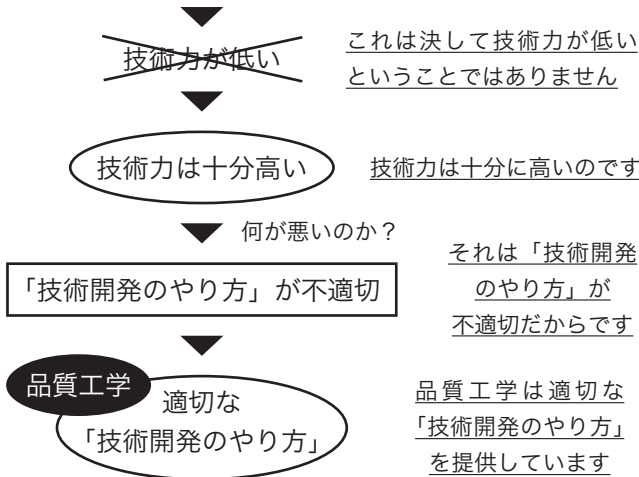
【品質工学の紹介】
(タグチメソッド)

品質工学は最適条件を求める道具です

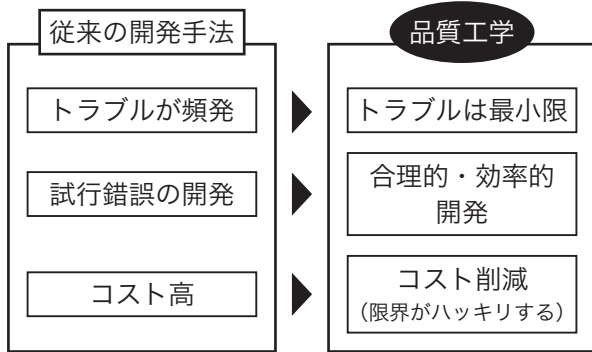
有限会社 増田技術事務所
info2qe@abox3.so-net.ne.jp

■ こんなことで困っていませんか？

- ・市場での製品のトラブルはありませんか？
- ・そのトラブル対策に追われていませんか？
- ・試行錯誤の開発に疑問を感じませんか？
- ・試行錯誤ゆえにいつも残業してませんか？
- ・コスト削減に行き詰まっていますか？



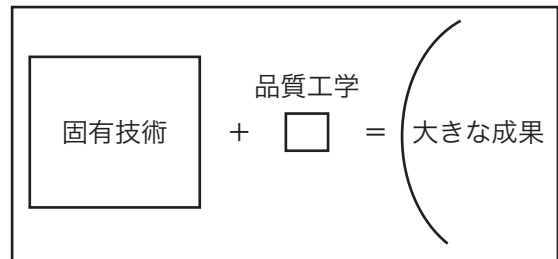
■ 品質工学を使うと、このようなメリットが得られます



■ Q & A

- Q1 品質工学はとても難しい手法なのでしょうか？
- A1 いいえ、品質工学は2日間で習得できる内容です。誰でも容易に習得でき、仕事に活用することができます。
- Q2 品質工学による技術開発では、**現在自分の持っている技術（固有技術）**は活かせるか？
- A2 活かすことができます。というよりもむしろ、品質工学による技術開発のメインは、技術者のもっている「固有技術」なのです。その技術力を最大限に活かすために、品質工学を使うのです。「固有技術」が主役で、「品質工学」は脇役なのです。

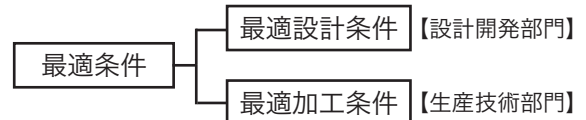
※つまり、下図のように「固有技術」+「品質工学」で「大きな成果」が得られるのです



品質工学では、皆さんの持っている固有技術が必要不可欠なのです

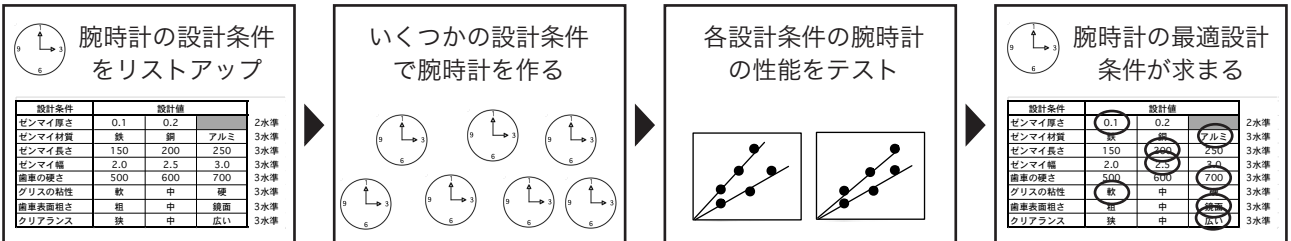
■ 最適条件を求める

品質工学で具体的にやることは「最適条件」を求めることです



■ 品質工学の適用事例

1. 「機械式腕時計の開発」【設計開発部門】



2. 「メッキ加工の最適加工条件」【生産技術部門】



3. 「シミュレーションにおける最適条件」【設計開発部門・生産技術部門】

